

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>【生きる力、確かな学力の育成に向けた組織的取組の推進】</p> <p>①「主体的・対話的で深い学び」を通して「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく育む。</p> <p>②当該学年の学力を身に付ける。</p> <p>③chromebookを活用した様々な学習形態に取り組み、新しい生活様式を通して確かな学力を身に付ける。</p> <p>【学校・地域・家庭の連携】</p> <p>①効果的な家庭学習について学校としての共通理解をもって、家庭に働きかける。</p> <p>②放課後及び夏季休業中の算数教室の充実を図るとともに、まちとも放課後子供教室との連携を図る。</p> <p>③読書を楽しみ生涯学習のきっかけとなるような教育環境を、保護者、地域とともにつくる。</p>

授業改善の重点
<p>○「主体的、対話的で深い学び」を実感させる指導を工夫する。</p> <p>○家庭や地域と連携、協働した取組を工夫する。</p> <p>○各学年においてchromebookを使った授業を行い、G-suiteを活用し協働的な学習を行う。Qubenaを活用し、個別最適化学習を進める。</p>

	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
各教科の指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が話しやすい学習形態や意見交流の持ち方を工夫する。 ・細やかなノート、作文指導を通して、正しい表記や表現が身に付くようにする。 ・毎週末に日記の課題を出し、書く活動を習慣化する。 ・辞書の活用と読書活動の充実を図る。図書指導員、読み聞かせボランティアとの連携を図る。 ・ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の知識やポイントを明確にしたり、感想を伝え合ったりしながら、曲や演奏のよさに気付けるようにする。 ・授業の他、音楽集会、連合音楽会、音楽鑑賞教室などの活動を通して、音楽に親しみ楽しむ態度や豊かな心を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科と関連付けて、より深められるように効果的な計画を立てる。 ・プログラミング教育の実施により、論理的思考を育成する。実践事例を参考に、小学校6年間を通した系統的な計画を立て、創意工夫したプログラミング教育を目指し各教科等で授業実践を行う。 ・各学年の活動内容を考慮し、ゲストティーチャーを招聘しキャリア教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「考える・議論する道徳」を目指し、ねらいとする道徳的価値について児童が自分との関わりとして捉え、自己理解を深めていけるようにする。 ・教育活動全体を通して具体的に指導する。
	<p style="text-align: center;">社会科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業を行い、児童が社会的な見方・考え方を働かせて課題を追及したり解決したりできるようにする。 ・気付きをもとに、ペアやグループで意見交換をするようにし、児童が多様な考えを認め合い、学びを深めることができるようにする。 	<p style="text-align: center;">図工科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を取り入れたり、大型映像装置やchromebookなどICT機器を活用したりする授業を行い、興味・関心がもてるように工夫する。 ・気付きをもとに、ペアやグループで意見交換をしながら、自分の考えを広げる。 		
	<p style="text-align: center;">算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「習熟度別指導ガイドライン(改訂版)」に沿った習熟度別指導を効果的にを行い、実態に合った教材や授業展開を工夫する。 ・課題に対して自分の考えをもち、伝え合える学習形態を積極的に取り入れる。 ・ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 ・東京ベーシックドリルの診断テストを使って前学年の学習内容の理解度を見取り、放課後や夏季の算数教室で個別に補う。年度末に再度定着度を確認する。 	<p style="text-align: center;">家庭科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活との関連を意識させた課題や導入を工夫し、実践的、体験的な活動に取り組みせることで、日常生活に活かしていこうとする態度を養う。 ・ICT機器を活用して視覚的に捉えられるような教材を工夫し、見通しをもって活動させる。個別指導の時間やグループで教え合う機会を充実させ、技能の向上と定着を図る。 		
	<p style="text-align: center;">理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習のパターン化を図り、予想から考察までの筋道を作って見通しをもてる学習活動を行う。 ・直接体験や観察活動のための教材教具を整備して技能や解決する力を伸ばす。 ・自然の事物や現象の変化について、根拠ある予想や仮説を表現できる力を伸ばす。 ・ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 	<p style="text-align: center;">体育科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を踏まえ、体の柔らかさと巧みな動きを高めることに重点を置き、学年間で内容を共有しながら授業の中で補う。 ・授業形態を整理し、安全かつ安心して運動ができるようにする。 ・持久走と長縄を学校全体で実施し、十分に実践できる期間を設定し、体力向上につなげる。 		
	<p style="text-align: center;">生活科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会および自然との関わりに気付かせる。 ・年間を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自分の成長を実感させる。 	<p style="text-align: center;">外国語科(5・6年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す、聞く、読む、書くの4技能を習得する活動を十分に入れ、バランスよく学力が身に付くようにする。 ・デジタル教科書などICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 ・イングリッシュウィークやイングリッシュフェスタなどの機会を活用し、ネイティブ人材との外国語交流を行う。 		
	<p style="text-align: center;">特別活動の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、たてわり班活動、クラブ活動、委員会活動等を通して、学級や学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法や自分の実践目標について、決定する機会を充実させる。 	<p style="text-align: center;">外国語活動(3・4年)の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携し、効果的で楽しい指導を行う。 ・聞く活動を十分に入れ、自然に英語の音が身に付くようにしたり、ペアやグループでの学習やゲーム形式の活動など、自然な形で発話する機会を増やしたりして、コミュニケーションを楽しもうとする態度を養う。 ・自己紹介ビデオやカード交換などで、海外現地校との外国語交流を実施する。 		

	構造的な板書とノート指導	ICT機器の活用	認め合う・学び合う集団の形成
本校の授業改善に向けて	<p>本時のめあてを提示する際に、色チョークを使って四角で囲い、意識付けができるようにする。児童の興味関心が高まるように、電子黒板やプロジェクターを使って課題の提示を工夫する。黒板も使って1時間の学習内容や児童の思考を可視化し、学習内容を理解できるように促す。</p>	<p>大型提示装置やchromebook等を活用し、個々の考えや疑問等を瞬時に共有することで、より深い学びを実現する。また、デジタルコンテンツ「Qubena」を活用し、個別最適化された学習時間を確保する。さらにデジタル教科書(算数・英語)を活用して児童により分かりやすい授業を展開するとともに、それらの効果的な活用法を各学年で工夫・共有する。</p>	<p>児童が1人1人が安心して学校に通い、落ち着いた学習に取り組むことができる居場所として教室を整備し、授業環境を充実させる。児童が互いに認め合い、称賛し合う望ましい人間関係を構築し、安心して学習できる環境をつくる。</p> <p>体験活動で子供同士で協力したり、各教科で子供たちが考えを交流したりする場面を増やすことで、協働的な学びを充実させる。</p>